

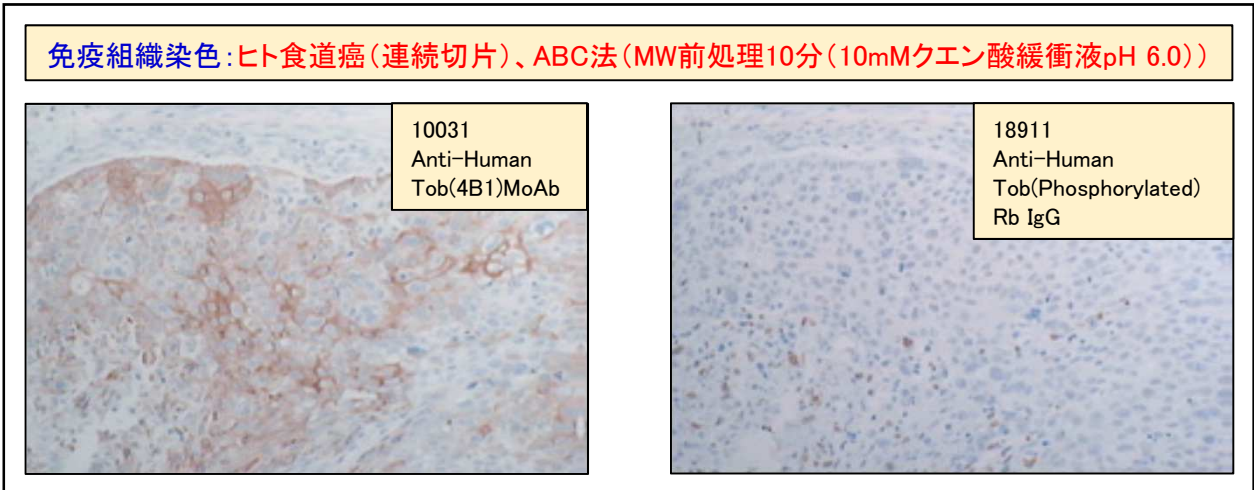
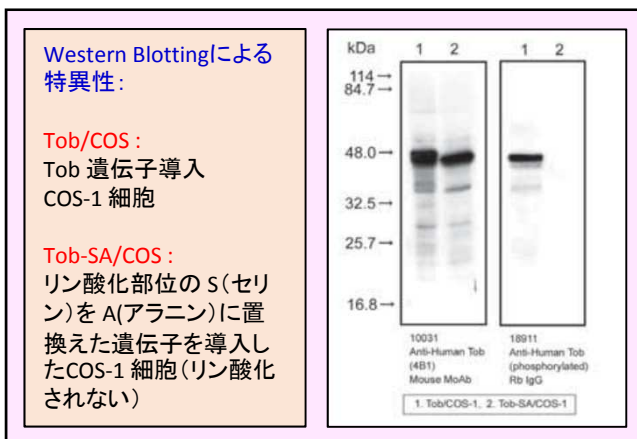
【検出対象】H: ヒト M: マウス R: ラット

※一律15,000円

製品コード	検出対象	製品名	アプリケーション	定価 (税抜き)	容量	小容量※
10031	H	Anti-Human Tob (4B1) Mouse IgG MoAb	IHC, WB	¥ 46,000	200 $\mu$ G	10 $\mu$ G
18911	H	Anti-Human Tob (Phosphorylated) Rabbit IgG Affinity Purify	IHC, WB	¥ 68,000	100 $\mu$ G	-

**Tob (Transducing molecule of c-ErbB-2)**は、1996年に受容体型チロシンキナーゼc-ErbB2と会合する分子として同定されました。その後、N末端側約110アミノ酸に相同性領域を有するタンパク質として、Tob2, BTG1, PC3/TIS21/BTG2, ANA, PC3Bなどが見出しされ、Tobファミリータンパク質と呼ばれています。これらはいずれも培養細胞に強制発現させると細胞増殖抑制活性を有することが明らかにされており、この増殖抑制活性はcyclin D1の発現をブロックすることによっています。一方、Tobは増殖因子などの刺激を受けてSer152, Ser154, Ser164がErk1/2によりリン酸化されます。このリン酸化により上記のcyclin D1に対する抑制の解除が示唆されていましたが、近年TobはERK MAP Kinaseの基質であることが証明され、Tobへの結合によりリン酸化が起こり、結果として細胞増殖活性の著名な抑制が認められています。このように、Tobおよびそのリン酸化は細胞周期におけるG0→G1期への移行に重要な役割を果たしています。

- 細胞増殖研究に有用です。
- ウェスタン・ブロッティングに適用できます。
- 免疫細胞染色及び免疫組織染色に適用できます。



参考文献:

1. 松田 寛、山本 雅: 細胞増殖制御因子 Tob とそのファミリーメンバー。実験医学、Vol.14、No.13、59-64、1996
2. Yoshida Y, Tanaka S, Umemori H, Minowa O, Usui M, Ikematsu N, Hosoda E, Imamura T, Kuno J, Yamashita T, Miyazono K, Noda M, Noda T, Yamamoto T. Negative regulation of BMP/Smad signaling by Tob in osteoblasts. Cell. 2000 Dec 22;103(7):1085-97.
3. Maekawa M, Nishida E, Tanoue T. Identification of the Anti-proliferative protein Tob as a MAPK substrate. J Biol Chem. 2002 Oct 4;277(40):37783-7.
4. Suzuki T, K-Tsuzuku J, Ajima R, Nakamura T, Yoshida Y, Yamamoto T. Phosphorylation of three regulatory serines of Tob by Erk1 and Erk2 is required for Ras-mediated cell proliferation and transformation. Genes Dev. 2002 Jun 1;16(11):1356-70.

**取扱い販売代理店**